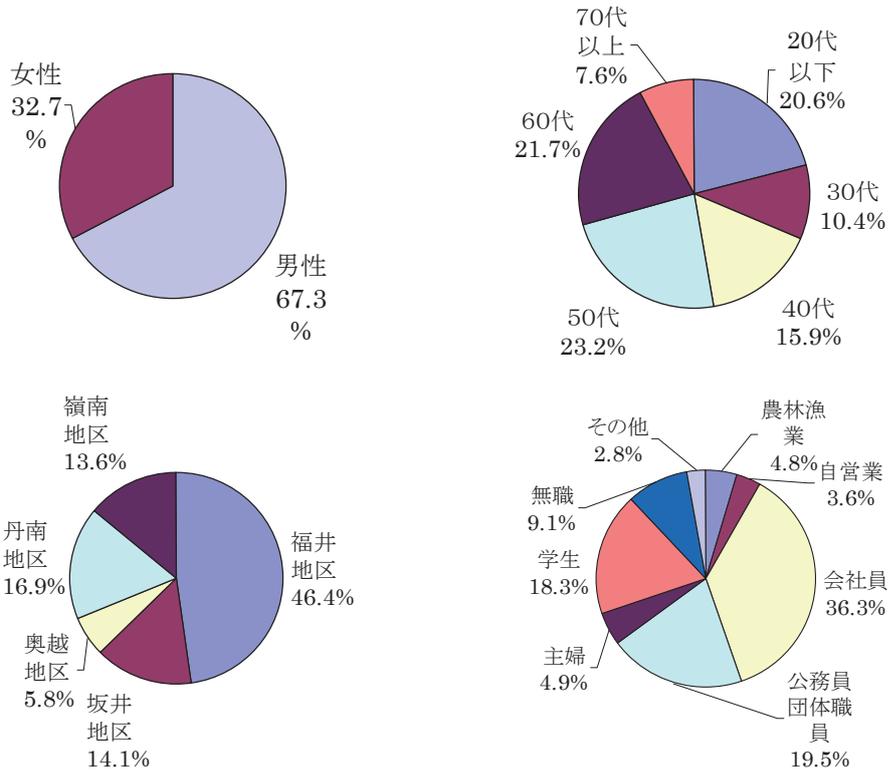


Ⅲ 県民意識の実態

地球温暖化による現象や地球温暖化のもたらす影響について、福井県民はどのように感じているのか、またどのような変化を感じているのか、その意識の実態をつかむためにアンケート調査を実施した。調査は平成 22 年 5 月、福井県民 1,543 名を対象に実施し、686 名から回答があった。

なお、回答者の属性は次の円グラフのとおりであるが、性別では男性、年齢別では 50 代、60 代、地区別では福井地区、職業別では会社員等が多くを占めていた。また、20 代以下では学生が大部分を占めていた。



1 地球温暖化問題への関心

地球温暖化問題への関心については、「非常に関心がある」35%と「ある程度関心がある」60%を合わせると 95%を占め、県民の地球温暖化に対する関心の高さがうかがえた(図 1.1)。また、年齢が高くなるにつれ関心度が高くなる傾向がみられた。

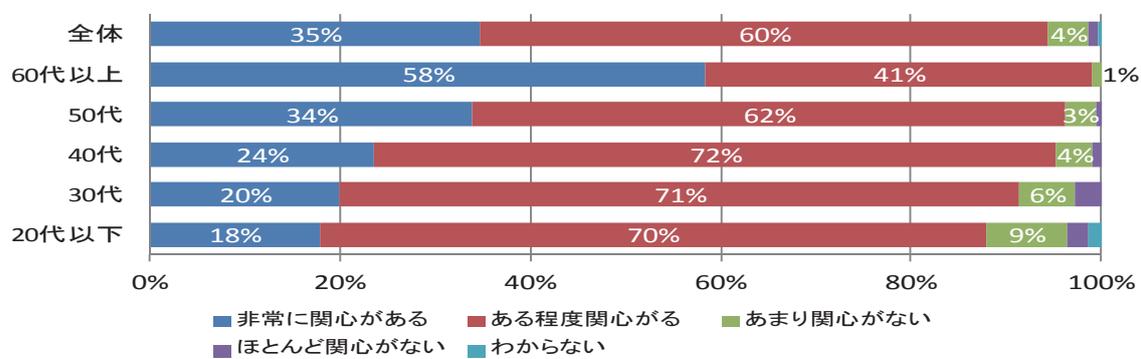


図 1.1 年齢別にみた地球温暖化問題への関心度

Ⅲ 県民意識の実態
1 地球温暖化問題への関心

2 地球温暖化の影響と意識

(1) 地球温暖化のもたらす影響への関心

地球温暖化の影響で県民が一番不安に感じていることは、「異常気象による干ばつや大洪水などの災害の発生」を挙げた人の割合が42%と最も高く、次いで、「気候の変化による農業、漁業への影響」24%、「気候の変化による生態系への影響」15%、「気候の変化による健康への影響」9%、「海面の上昇による陸地の消滅」7%と続いている（図2.1）。

年齢別でみると、若年層は、他の年代よりも「異常気象による災害発生」を不安に感じている割合が低く、また、不安に感じている項目にバラツキがみられるなど他の年代に比べ多様な見方、感じ方をしているものと推察される。

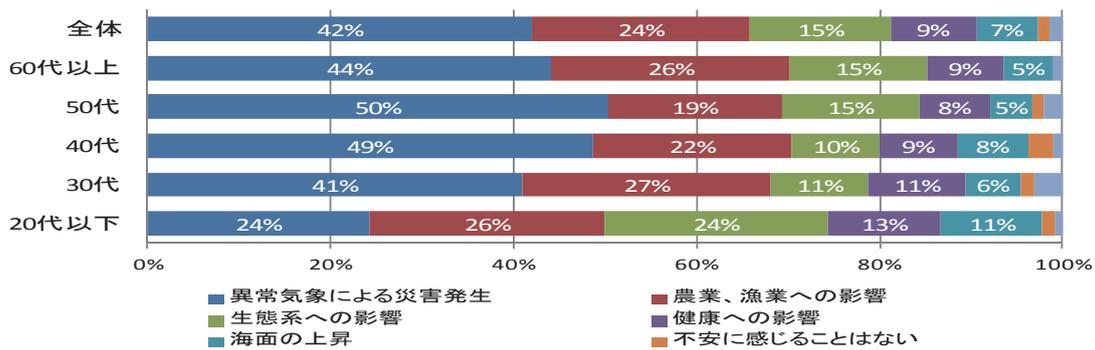


図 2.1 年齢別にみた地球温暖化の影響で不安に感じること

(2) 身近に感じる地球温暖化

地球温暖化の影響を身近に感じている人は、「非常に感じている」20%と「ある程度感じている」63%を合わせると83%を占め、「ほとんど感じていない」はわずか3%で、多くの人々が地球温暖化の影響を身近なものと感じていた（図2.2）。

年齢別では、年齢が高くなるにつれ、地球温暖化の影響を身近に感じている人の割合が高くなる傾向にあり、60代以上では94%の人が影響を身近に感じている。一方、20代以下では、影響を身近に感じている人の割合は58%と最も少なくなっている。このことは、20代以下の人々は、地球温暖化の影響が顕在化する以前の環境を知らないため、他の年代に比べて地球温暖化の影響を身近なものとして捉えにくいのではないかと考えられる。

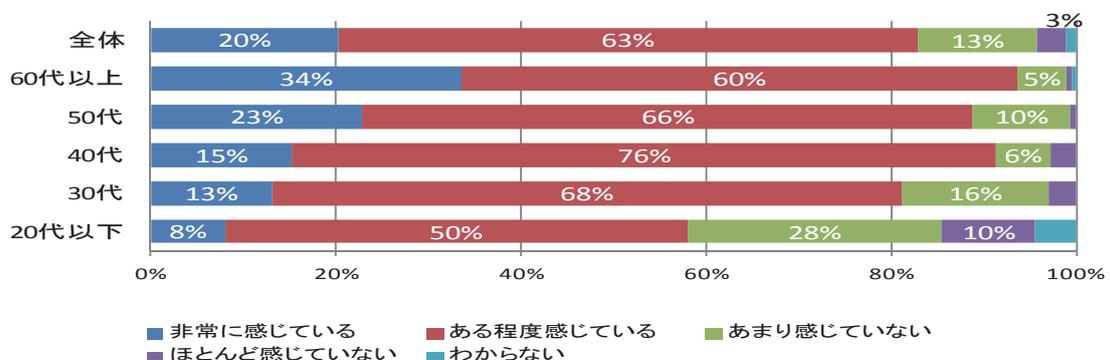


図 2.2 年齢別にみた地球温暖化の影響を身近に感じる度合い

(3) 地球温暖化の影響と感じている身近な現象

地球温暖化の影響により身近で実際に起こっていると県民が感じている現象についての調査結果は、図 2.3 のとおりで、「降雪量の変化」(81%)、「猛暑日、熱帯夜の増加」(72%)などを挙げる県民が多く、これらの現象を地球温暖化がもたらす影響として実感していることがわかった。

また、調査において、分野毎に示した項目以外に、その他として記載のあった主なものは図 2.3 の右の欄のとおりである。これらの現象については、IPCC 第 4 次評価報告書や国の報告書等^{1),2)}で地球温暖化の影響として評価されているものが多数含まれている。

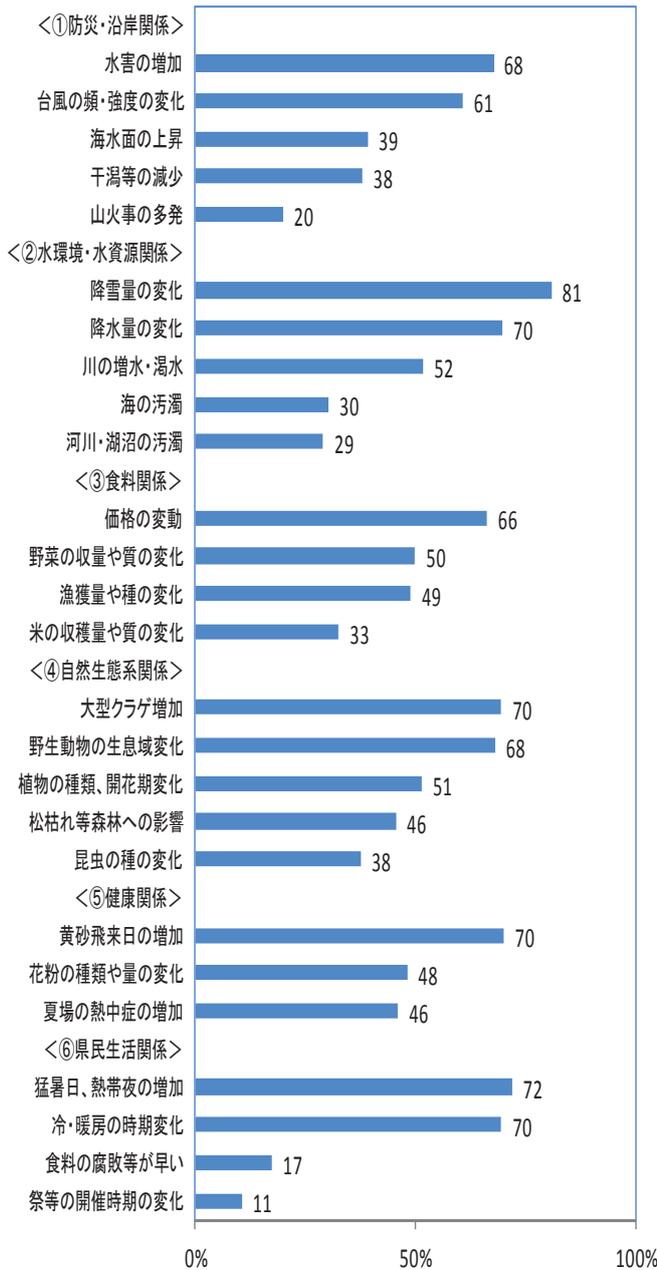


図 2.3 身近に感じる地球温暖化「そう思う」の回答率

①防災・沿岸関係

- ・局地的な集中豪雨が増えてきている。(20)
- ・台風並みの強風や竜巻が発生する。(11)

②水環境・水資源関係

- ・雨雪が一時的に多く降ったり、降らない日が続いたりする。(6)

③食料関係

- ・南方系のサワラが多量に獲れるようになった。(8)
- ・農作物の作付け、収穫の時期が変化している。(7)

④自然生態系関係

- ・トンボ、チョウ、セミ、ホタルなど昆虫が減少している。(18)
- ・猪の生息域が北上し、被害が増大している。(16)
- ・熊、猿、鹿を見かけることが多くなった。(13)

⑤健康関係

- ・花粉症の人が多くなった。(7)
- ・寒暖の差が激しく、体調を崩す事が多くなった。(4)

⑥県民生活関係

- ・日替わりでの寒暖の変動が激しい。(7)
- ・夏はエアコンがないと生活しにくくなった。(4)

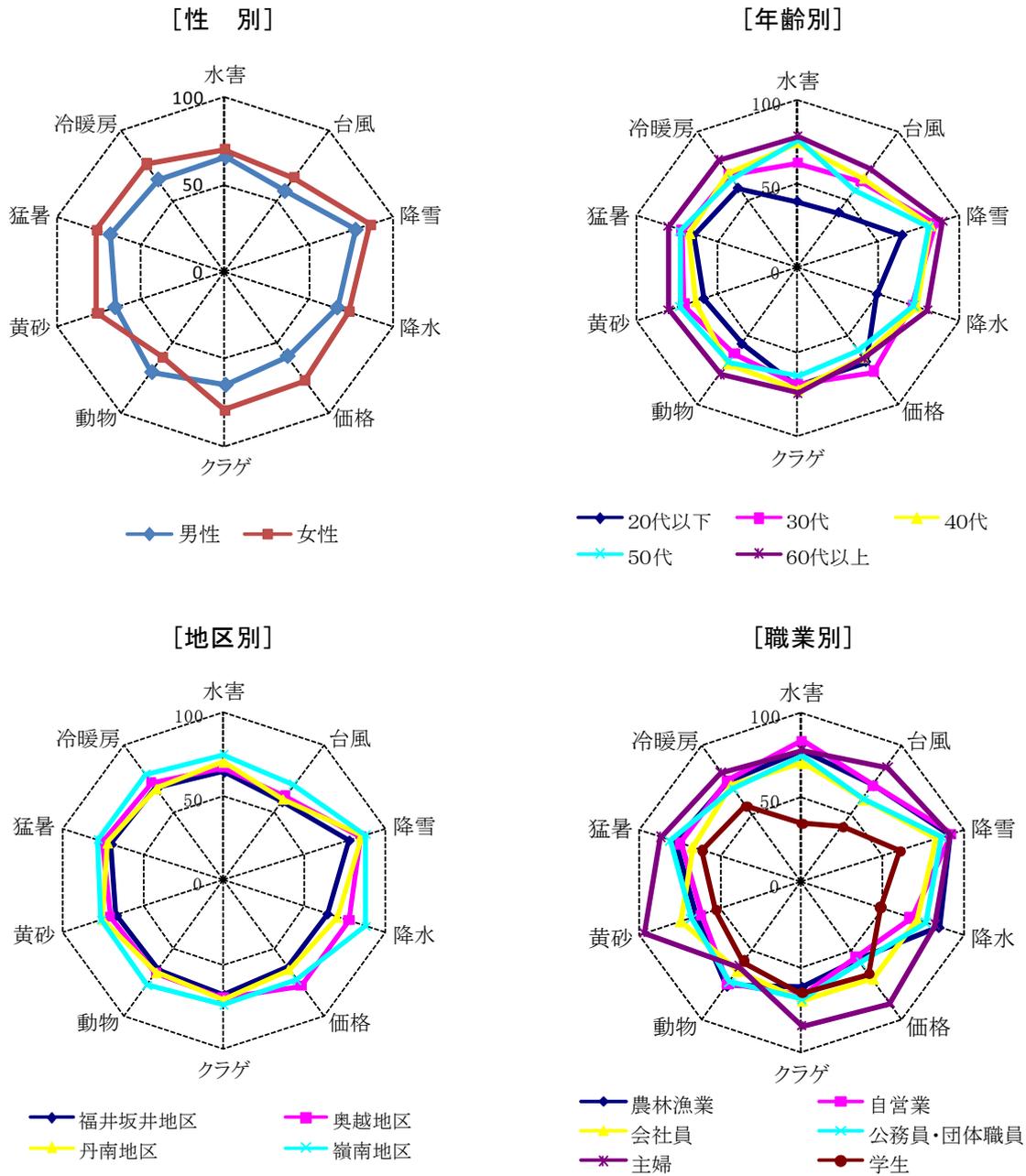
その他(自由意見欄)

- ・降雪量は確かに減少した(44)が、逆に夏季の水不足が心配(3)
- ・屋根雪下ろしや除雪の回数が減って冬の生活が楽になった。(28)
- ・四季の始まりや終わりがずれてきている。(22)
- ・つららやしみのり(空歩き)ができるほどの厳冬が減っている。(15)
- ・スキーシーズンが短くなった。(5)
- ・夏の日差しが眩しく、紫外線対策が必要。(5)

()内の数字は、同様の主旨で記入されたものの合計人数を示した。

(4) 性別等の区分別に見た県民意識

図 2.3 で「そう思う」の回答率が高かった上位 10 項目について、性別、年齢別、地区別、職業別に回答率を比較した結果は、以下の図に示すとおりである。



グラフの項目は、

「水害の増加」を「水害」、「台風の頻・強度の変化」を「台風」、「降雪量の変化」を「降雪」、「降水量の変化」を「降水」、「価格の変動」を「価格」、「大型クラゲの増加」を「クラゲ」、「野生動物の生息域変化」を「動物」、「黄砂飛来日の増加」を「黄砂」、「猛暑日、熱帯夜の増加」を「猛暑」、「冷・暖房の時期変化」を「冷暖房」として表示した。

性別では、男女とも「降雪量の変化」を地球温暖化の影響として一番身近に感じていた。また、女性は「野生動物の生息域変化」を除いた9項目について男性に比べてより身近に地球温暖化の影響を感じており、福井県の女性は、男性に比べ地球温暖化現象をより敏感に感じとっているものと推察される。

年齢別では、60代以上が「価格の変動」を除いた9項目で「そう思う」の回答率が高かった。このことは、年齢が高くなるにつれ、地球温暖化の影響を身近に感じる度合いが高くなる傾向（図2.2）と一致する結果となっている。

地区別では、嶺南地区は大多数の項目で他地区に比べやや高い回答率を示しており、特に、「降水量の変化」が「降雪量の変化」に匹敵するくらい高く、雨に対する関心も高い地区であることがうかがえた。

職業別では、主婦は「野生動物の生息域変化」などを除いた6項目で高い回答率を示しており、特に「黄砂飛来日の増加」や「価格の変動」など日常生活に関連している項目が高かった。学生の回答率の最も高かった項目は「価格の変動」であり、主婦同様に日常生活を反映する結果と思われる。また、学生は「価格の変動」などを除いた8項目で他の職業よりも低い回答率を示していた。このことは、若年層が他の年代ほどには地球温暖化を身近に感じていない傾向（図2.2）と一致するものであり、前述（2(2)）したとおり、地球温暖化の影響が顕在化する以前の環境を知らないことに起因しているものと推定される。

《参考文献》

- 1) 文部科学省 気象庁 環境省：「日本の気候変動とその影響」（2009年10月）
- 2) 温暖化影響総合予測プロジェクトチーム：地球温暖化「日本への影響」－最新の科学的知見－（2008）